

# 東和製作所が新工場

## 美濃加茂市生産量増加に対応

### 25年完成

油圧機器メーカーの東和製作所(美濃加茂市川合町、板津英仁社長)は、同市本郷町に3拠点目の工場となる山手工場を建設する。調達先の国内回帰による生産量の増加に伴い、本社工場が手狭になっており、製造ラインの一部を新工場に移す。近隣の住宅街と工場間に緩衝地として農地を設けるなど周辺の住宅環境にも配慮した。2024年6月に着工、25年3月の完成を目指す。投資額は約8億円を見込む。(松浦健司)

## 緩衝地として隣に農地



山手工場(中央)と住宅街の緩衝地として設ける農地(中央下)のイメージ図

主力の油圧シリンダーは、消防はしご車やごみ収集車、フォークリフト、トラクター、除雪車など働く車(特装車両)に使われる。円安やコロナ禍に起きた供給網の混乱で調達先の国内回帰が進むなどし、生産量が1年間で15%増えている。新工場の敷地面積は約3500平方メートル。鉄骨一部2階建てで、延べ床面積約2200平方メートル。現在、シリンダーは基幹工場である本社工場で製造。シリンダーの部品である金属棒に限っ

て、本社工場で加工した後、直線距離で3・5キロ離れた蜂屋工場(同市蜂屋台)に運んでメッキ加工し、本社工場に戻してシリンダーとして組み立てる。一連の工程のうち、本社工場と蜂屋工場の間には位置する新工場が最初の加工を担い、物流の効率化にもつなげる。環境保全と周辺住民への騒音に配慮し、緩衝地として設ける農地の面積は約4600平方メートル。栗畑と田んぼにする計画で、田んぼではトラクターなどシリンダー

を使った農業機器の実機テストを行う構想も持つ。板津裕斗専務は「工場に農地の緩衝地は珍しいことだが、美濃加茂市に本社を置き、これからもこの街で会社を発展させていくためには必要なこと」と話している。